

# 櫻井仁人先生退職記念事業趣意書

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、鹿児島大学工学部 海洋土木工学科助教 櫻井仁人先生におかれましては、本年三月末日付をもちまして、鹿児島大学を定年退職されることになりました。

先生は昭和五十年四月に東京大学海洋研究所より鹿児島大学工学部海洋土木開発工学科（現在の海洋土木工学科）に助手として奉職され、その後、昭和五十六年六月に講師、平成十二年四月に助教授に昇任されました。

この間、先生は、ご専門とされる海洋および大気の物理現象に関連して、海洋学総論、海洋物理環境学、気象学総論、地球科学基礎、海技演習、大気海洋環境特論などの講義を教授されて、幾多の人材を育成されました。その一方では、放送大学非常勤講師、鹿児島大学博物館及び多島研兼務教員をなされたり、指宿においては高齢者市民講座で毎年講義されたりして、本学の学生のみならず、市民の生涯教育にも携われました。

研究面においては、東シナ海における黒潮の流量変動、異常潮位と海況変動など、外洋の変動に関する研究のほかに、身近な環境問題として、鹿児島湾の海水交換、湾内を横断するフェリーに水温・塩分計を設置しての湾内海水の変動、鹿児島島の気候変動など、地元への貢献を意識した研究を多く手がけ成果を挙げられました。

このように研究教育のご尽力の傍らで、先生は、日本海洋学会沿岸海洋部会委員、海洋気象学会理事、鹿児島県漁礁検討委員会、鹿児島県環境評価専門委員を歴任され、学会運営および地域社会へ大きく貢献されました。

そこで、このたび、先生のご退職にあたり、長年の先生のご功績とご貢献に対して、心より敬意と謝意を表わすとともに、これからの一層のご活躍を祈念いたし、私ども有志が相計りまして記念事業を計画いたしました。つきましては、なにとぞ趣旨にご賛同いただき、格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成十九年三月吉日

敬具

櫻井仁人先生退職記念事業会発起人代表

海洋工学基礎研究室卒業生 松永洋文（昭和五十二年卒）

各位 殿

## 記念事業

## 一・記念講演会

演題 「地球環境と人」

日時 平成十九年五月十九日(土)午後四時から五時まで

場所 ステーションホテル ニューカゴシマ

鹿児島市中央町六一五 電話 〇九九―二五三一五三三三

## 二・記念祝賀会

日時 平成十九年五月十九日(土)午後五時三十分より

場所 ステーションホテル ニューカゴシマ

会費 六千円

## 三・記念品贈呈

具体的内容は記念事業会事務局に御一任下さい。

醸金

金額 一口(二千円)以上

## ● 申し込み(祝賀会、記念品醸金)

まことに恐縮ですが、事務処理上、同封いたしました振込み用紙にての、会費および記念品醸金の振込みをもって、申し込みにかえさせていただきます。

締切日 平成十九年四月末日

振込み先 郵便振替口座 〇一七八〇―四一九七四四四

櫻井仁人先生退職記念事業会

(同封の郵便振替用紙をご利用下さい)

## ● 連絡先

鹿児島大学工学部海洋土木工学科環境システム工学講座 山城 徹

〒八九〇―〇〇六五 鹿児島市郡元一丁目二十一の四十

toru@oce.kagoshima-u.ac.jp 電話 〇九九―二八五―八四六八

鹿児島県土木部港湾空港課 松永 洋文 電話 〇九九―二八六―三六五〇

鹿児島県環境技術協会渉外部 廻 修二 電話 〇九九―二六二―〇一九三

## 発起人氏名(敬称略、五十音順)

赤尾 晋	浅野 敏之	安達 貴浩	荒武 明子	池田 勝愛	石田 覚
井田 広正	宇野 秀明	大坪 厚仁	假屋 修一	川越 輝樹	河野 健二
北村 良介	吉川 宏	木村 至伸	楠原健太郎	黒木 敬司	黒木 正浩
五反田敏広	佐藤 道郎	新村 昌生	杉原 庸水	瀬戸口 学	竹下 彰
武若 耕司	田坂 正博	田中 一史	田中 大誠	田中 亮三	登川 武司
中野 克彦	中山 文人	西原 直樹	西村 達郎	三隅 浩二	萩 亮
梁木 英寿	平石誠一郎	平屋 幹雄	藤崎 数雅	前村 武生	松永 洋文
松本 進	水溜 栄作	宮田 司	廻 修二	諸木 健太	山口 明伸
山崎 貴之	山城 徹	山本健太郎	雪丸 敏昭	吉富 拓磨	若松 隆